

第3.5回 霧島リノベーションまちづくり戦略会議 2020 議事録

日 時 令和3年1月30日(土) 15:00~18:00

場 所 霧島市役所別館 2階 2-2会議室

会議参加

須部貴之、野崎恭平

有村健弘、松本一孝、大西正将、白水梨恵、日永田剛、奥野貴大、徳永功一郎、増田泰博
市職員(谷口部長、池田課長、梶G長、勘場、宮之原、東)

タスクフォース:有馬(都市計画課)、堀内(財産管理課)、橋内(建築指導課)

参加者数 計19名(委員8名、市職員9名、講師等2名)

須部 ではよろしくお願ひします。今日はカツカツです。途中休憩も入れながらですが、バ
ッファ、余白と思つてください。ちよつとずつエンジン入れていってもらえればと思ひます。
本日のスケジュールは皆さんにお配りしているのて、これを共有して始めていきたくと思
ひます。本日の成果イメージというか決めたいことが、テーマとしては今までやってきた霧
島まちづくりリノベーションの推進ガイドラインを宮之原さんがこれまででてきたものを
説明してくれます。最終的にいる委員のメンバーでこのキャッチコピー、このワードでいき
たいよねっていうワード決めをしたいっていうのが最初の前段であります。これをコンセ
プト決めとします。後半、コンセプトこれでいいよねっていうのがある程度見えてきたらキ
ーワード出していくことで、パンフレットとかに載せるための言葉とかをいろいろ皆さん
の中から抽出したいので、未来の霧島のファンってどういう人たちなのかなとか、各エリ
アの未来の暮らし方はどんなものを想像できるかというキーワード。これは沼津の事例が
あるのてそれをもとにイメージしながらキーワード出しをしていく。それで最後に4つの
戦略、これは今から出てきます。それを一言でいうと何かなというキーワード出しを10文
字くらい。これも事例があるのて、それを見ながらワークをしてもらひます。全体のスケジ
ュールとしては、この流れに沿っていきますけど、成果物として出すためには皆さん、たく
さんしゃべってください。書き留めていただくのは宮之原さんと勘場さん、野崎さん。3テ
ーブルについてもらつて書いていただく。委員の皆さんが話しやすいように降つていただ
ければと思ひます。たくさん言葉を出していただければというのが今日のポイントかと思
ひます。今日のグラドルールはたくさんしゃべってね。言葉出した分だけ抽出できるので。
宿題はあとで。次回発表があるのて、その時皆さんに一人一枚スライドを用意してもらひま
す。今まで考えてきたことを整理して発表してもらひるのが宿題になります。ではチェックイ
ンをしていきます。せっかくなので今年の抱負と今日に期待することを願ひします。



白水) 今年の抱負は、前回の時はまだ横川にいなかったんですけど、12月10日に横川に移って、今1か月半くらい。すごい田舎の洗礼をうけているんですけど、今年の抱負は、起こることを楽しみつつ、あと霧島を楽しもうということで1年かけて温泉巡りを元旦から始めています。今日に期待することは来年以降につながる大事な話があるなと思ったのでたくさん話しながらいろいろ考えていこうと思います。

増田) 今年の抱負は、今場所づくりをしているんですけども3月完成を目指しています。そこで楽しいことをやっていけたらなと思います。今日期待することは頭を絞っていけたらいいなと思います。

日永田) 抱負は、去年はあれやこれや興味あることに手を出していたんですけど、今年はそのつなげて形にできたらいいなと思います。今日期待することは12月のことだいぶ忘れてしまったんですけど、ちょっとテンション上がっていたと思うのでそこまで戻せたらいいなと思います。

松本) 今年の抱負は、去年はいろんな整備があったのでなかなか前に進めなかった。今年は倍速で進めればいいいなと思います。今日はいいキャッチが出てくれればいいいなと思います。

奥野) 今年の抱負は、まだ構想段階のことが多いんですけど、それを実現できるように頑張っています。まだ追いつけていない部分があると思うので、みんなの話を聞きつついいワード出しができればいいなと思います。

有村) 今年の抱負は、3月からプロジェクトが本格的に立ち上がるんですが、その手前でまだ銀行と交渉しているところがあるのでなんとか倒します。今回作るものを銀行に持参して銀行が逃げないようにしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

大西) 今年の抱負はチャレンジですね。去年からずっと引き継いできたものと、本業以外でこの企画だったり、国分の音楽コミュニティを作って活動することになって、今度市役所の補助金使ってやらせてもらうんですけども。あと霧島国分夏祭りの実行委員長もやらせてもらうことになって。やるの？ってところなんですけど。例年やる気ないんですけど、コロナで例年通りできないことが今回どさくさにまぎれてできるかなっていうのがそこを楽しみに、そういうソーシャル的なものも頑張ろうと思っています。今日はワード出しが主なコンセプトなのでなるべく発言できるように頑張ります。

徳永) 今年の抱負は、このメンバーでなにか一個お祭りができたらいいなと思います。今日に期待するのは、年始めなので、いいワードが出て良いスタートダッシュが切れればいいなと思います。

課長) 今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回で形になっていくと思うので楽しみにしています。

梶) 本日で2月21日に向けてのいい方向性が出るように期待しています。よろしくお願いします。

勘場) 今日みなさんに押され負けないように頑張ろうと思います。先日出水市のリノベーションスクールを受けてきて、出水の研修では霧島でこういう動きがあるということも皆さん知っているの、たくさん霧島のことを聞かれました。みなさんのプロジェクトが形になっていけば出水の人がこっちに来たりできると思いますので。

野崎) 今日僕もテーブルファシリやらせてもらうので、皆さんの声を拾えていけるように頑張ります。

東) 2月の発表まで形になるまで裏方で頑張らせてもらいます。

有馬) このリノベーションもそろそろまとめの時期ですので形にできればいいなと思います。

橋口) 市役所5階で主に建築関係の審査をしています。またみなさんからいろいろ教えてもらえればと思います。

堀内) 今日の会を一週間前に開催されるというのを知りまして、あと1か月しかないところで皆さんがどんな霧島市を作っていくのかというところを楽しみにしております。ニュースで見られた方もいらっしゃると思うんですが、トヨタが実証実験でまちづくりをしているというのを聞きました。どんな霧島市ができていくか一職員として、一市民として楽しみにしています。

部長) 今日は委員の皆様のご貴重な意見を聞けるのを楽しみにしてきましたのでよろしくお願いします。

須部) 前回の内容忘れていらっしゃる方、欠席されていた方いらっしゃると思います。前回、去年までに考えたことを外向けに伝えるために、宮之原さんから皆さんにお伝えします。15分で終わらないかもしれませんが今から話してもらいます。今の霧島市ってこういう状況だよとか、SDGs、SWOT分析の考え方というところが4つの分析の戦略として落とし込んでるので、僕らが話していたことはここに落とし込まれているんだという視点で聞いていただければと思います。みんなが作ったこととか、委員さんにここ話してほしいというところもガイドしていただければと思います。

宮之原) 委員の方が全員集まられたのが10月の第2回以来、あと4回目の市民発表まで1か月切っているんですけど、それまでに私のほうで推進ガイドラインという形で策定するものを作ってきました。大体完成の進捗が70%くらいの状況です。その状況でみなさんにお示しして、足りないところを今日皆さんにワークしてもらって流れにしています。市役所の抱える都市経営課題とか、皆さんがやりたいものをうまく融合させています。15分、本編が70ページくらいになりそうなものを抜粋してお伝えするのでちょっと足早になるんですけど。タイトル仮で中身も案なんですけど、ガイドラインということでまとめたいと思います。目次はこんな感じです。今日話すところは赤いところを主に話していきます。霧島の現状、弱み、都市経営課題、それから霧島市の強みだったり、兆し。あとはこれから考えられる霧島市の4つの戦略。というところをこれからご説明します。それから霧島市の未来を話していただくので、そのあたりの流れも含めて聞いていただければと思います。



早速ですが、霧島市の現状です。グラフも交えて説明したいと思うんですけど、20代から30代の人口減少が著しいというか下がっていました。今は減少から維持という状況です。ただこれまでずっと減り続けていました。それに伴って30代が減っていく。20代から30代が減っていくと0歳から4歳、子供の数も減っていくような状況です。今後この現象が続けば少子高齢化がもっと加速することが考えられます。なんで若者が流出するかっていうところなんですけど、霧島市のほうで、去年卒業見込みの学生たちにアンケートを取りました。市内に就職したくない理由トップ。志望する企業が無いから。都会の生活が魅力的だから。こういった理由でみなさん外に出て行かれます。どういった企業に就職を希望しているかなんですが、一番目は公務員、教職員。医療福祉。それから情報通信業って出てくるんですけど、インターネット関連だとか広告だとか放送局とかもあたります。霧島市の情報通信業で見ると霧島市は20社しかない。ここはミスマッチなんじゃないかと。公務員とか建設業は霧島市でまかなえていますけど、やっぱり145人志望しているのに20社しかないっていうのはこの機会を逃がしている。情報通信業を増やせば145人のうち何人かは霧島市に残ってくれるんじゃないかなと思います。ここブルーオーシャンなのでこの業種で起業する人が誰かいれば、働き手という部分では良いんじゃないかなと思います。まちなかなんですけど空き店舗が増えている。空き店舗が増えているというか、まちなかのビルがどんどんなくなっているのだから空き店舗率が結果上がっている。ビルがなくなると空き地になって

駐車場になっていく。空き店舗が増えるだけじゃなくてエリアの価値を示す数値も低くなっている。10年前と比べて40%減少しているような状況です。空き家のほうについても10年間で増えています。霧島市の状況なんですけど21%の空き家率。国を見ると13%、県で見ると19%というところで他のまちよりも高い数値になっています。ただ、霧島市は別荘があるので他より数値が高いというのがあります。県の空き家率の増加率よりも伸びは鈍化しているというところはあるんですけど、それは建物の数も増えている、新築の着工件数も増えているので。母数が増えている分空き家率としてはあまり増えていない。これは建設指導課が平成24年に作ったものなんですけど、地区別で分かれていて、割合でいうと国分隼人は空き家の数多いんですけど、住宅の数も多いので空き家率としては低い。一方で中山間地域は高くなっている。地区別でも差があるということです。霧島市のお金、懐事情なんですけど、自主財源というのが市税、市が直接徴収しているもの。義務的経費というのが社会保障とか絶対支払わないといけないものなんですけど、霧島市はだいたい60%くらいしかまかなえていない計算になります。これからも少子高齢化が進むとお金払えなくなりますよね。あとは公共施設の一人当たりの床面積が多い。合併したまちというのはほかの市町村より公共施設が多いんですけど、霧島市はさらに公共施設の数が多い。今後その公共施設を維持、改修していくために将来的に34億円不足していく。自主財源もないのにかかる費用がある。どうしようも立ち行きもいかないような。今まとめたのがこれですね。20代は、だいたい15年間で、合併してから30%減ってる。全体人口では2%弱なので、若者はすごく減っています。空き店舗率も全体の4分の1。空き家は年間で240戸増えてる。まあこういった状況というのは、市が特に寂しいような状況で、市としてもこういった都市経営課題の解決っていうのはしないといけないんですけど、財源ないから難しいねというところで。この財源を維持するために施策の財源をカットしてしまうと市民サービスの低下につながってしまうから、どうにかしないとイケないよねってところです。今のが現状なので、なんでこういうふうな行政になっているのかというところが、本質的な都市経営課題なんじゃないかなと思ってます。霧島市、合併前の旧市町村の中心エリアに今、人がいないような状況です。買い物をする場所がない、遊ぶ場所がない、中山間地域も食料品を買う場所がない、働く場所もない、学ぶところがないというような感じで、みんな若者が流れていく。プラスお金も流れていってるといって。これって、街中に人がいないっていうのは、もちろん今では当たり前というか、当たり前じゃないですけど、普通なことなんですけど、まちに人がいないっていうことは、街中、一番消費活動がされる場所で消費活動が行われないうことは、市内にお金が落ちていないっていう。街中はやっぱり出会いが生まれる場所なのに、そういったところで情報が集まらない、コミュニティが生まれないという、ヒト・モノ・カネの循環が霧島市内全体でできてないんじゃないかというところが大きい都市の経営課題なんじゃないかなと。なので、人が集まる状況っていうのは、やっぱり霧島に暮らす人にとって魅力的である場所でないといけないし、選ばれる場所にしていかないといけないなと思ってます。霧島市の地域資源と価値というところで、第2回目に皆さんから強み、弱みの部分を

出していただきました。そういったところをいろいろ考え合わせて3つくらい集約できたので、これを説明したいと思うんですけど、やはり車で30分で海、山、川、温泉などの自然が楽しめるっていうところが、やっぱり霧島の一番の強みなんじゃないかなと。自然と都市のバランスがいい。一番大きな霧島市のやっぱり価値なんじゃないかなと思います。続いては、合併前の市町村ごとの独自の特色があるところで、1次、2次、3次のすべてある、あと大手企業、立地企業が多く立地している。それぞれのまちに特産品があったり、特色がある。そういったエリアがすごく点在しているっていうところも、霧島の他と比べての価値なのかなと思ってます。続いては、やはり人だと思ってます。市の強みの部分に「人」の部分が出てきたのがすごいなと思ったんですけど、やっぱりまちを思う市民の存在がある、霧島市を盛り上げようと思っている人がいること自体が霧島の価値ですし、今後伸ばしていきたい場所でもあるので、そういったところは取り上げていきたいなと思います。先ほど暗い話をしましたが、霧島市の兆しとしては、若者の割合が今、減少から維持に変わっているような状況。しかもそれは平成29年から何らかの理由で維持されている。あとは、コロナ前からなんですけど、ローカルエリアも注目されています。今年、人口動態にも変化が見られていて若者が霧島市に入ってきているような数字もあったりするので、やっぱりローカルに今、注目が集まっている。こちらは、創業状況なんですけど、市内で言えば増えているっていう風に考えているんですが、中山間地域が増えている。始良伊佐地区っていうのは、意外とほかの地区より開業率っていうのが高い、そういった創業する環境っていうのがしっかり整っている。なので、こうした小さな兆しなんですけど、強みを生かして、弱みをポテンシャルに変える戦略を打っていきなすと思います。続いてです。将来の霧島への思い、それから霧島をどんなまちにしたいですかというような、第1回の前、事前フォーラムの時にお聞きしたものです。皆さんが考えている霧島をどういう風なまちにしたいっていうところを、一番最初に出していただいたんですけど、たぶんこの通りの戦略になってます。1回目の最初でもう答え出たんじゃないかなと思うんですけど、それをうまくまとめてみました。第3回目に、徳永さんと増田さんがちょっと欠席されたんですけど、SWOT分析っていうマーケティング手法を用いて、それぞれのプロジェクトについて戦略を立ててもらったんです。それを霧島版で霧島市の強み、弱み、機会と脅威を出して、分析を行いました。先ほどご説明したように、強みは自然が共存している、機会は流れがローカル志向、弱みは遊休不動産が多くあり、エリアの魅力が低下している。脅威はやっぱり光回線の導入が遅れている、情報通信業が少ないところ、総じてクリエイティブ産業振興の遅れ。行政としても脅威かなと。これを、強みと機会を合わせて積極的戦略、強みと脅威で差別化戦略、弱みと機会改善戦略。脅威と弱みでイノベーション戦略という、この戦略づくりっていうのもこちらで行いました。そしてこれが4つ生まれてきました。積極的戦略、機会と強みなんですけど、流れがローカル志向っていうチャンスを、本市の都市と自然が共存しているっていう強みによって最大限に活用してまちづくりをしていきたいと思います。先ほども申したように自然、アクティビティがある、30分行けば、山も海も川もある。首都圏レベルじゃな

いけど、生活には困らない。ローカル暮らしに憧れがある人にとって、霧島は自然が近く、家族と出かけたり、仲間と遊びに行く場所として、非常に魅力的だ。なので、このような都市と自然が共存している霧島は、他の市町村と比べても比較的有利である。住みよい場所と遊べる場所がセットになると。ローカル暮らしを魅力的に感じる。若い人に人口減少の厳しい 20 代から 30 代から選ばれるまちにするということで、若い人に憧れられるように地方暮らしを実現するというものが、積極的戦略ということでひとつできました。続いてです。改善戦略、事業機会、あるいはローカル志向を本市のエリアの魅力が低下しているということで、取り逃さないための戦略。数多くある不動産に新たな価値を生み出す人材の発掘を強化する戦略。やはり、民間の不動産もなんですけど、公共の不動産も含めて事業者とのマッチングを進めないといけない。遊休不動産を活用できる民間企業の獲得、育成。家守的な方々を発掘、育成していく。続いては差別化戦略です。クリエイティブ産業の振興と脅威なんですけども、本市の強み、都市と自然が共存している強みで脅威を機会にということで、子育てしやすい環境を生かしてクリエイティブ人材が育つ土壌を作る。自然が豊かで子どもを遊ばせるスポットが多い。お店も多く、生活に必要なものが手に入る。まちなかなんだけどマンションが増えており、子育て世代が流入しやすい。特に国分のマンションが目に見えて増えている。隼人も子育て世代が結構多い。都市と自然が程よく共存しているので子育てしやすい環境がある。なので、子どもたちへのプログラミング教室だったり、子育て世代への音楽だったり、アートだったりなどのイベントを通じてクリエイティブな人材が育つ土壌を作る。というような戦略になっています。なので子育てしやすい場所プラスアルファで価値をつけて他の市区町村と差別化する。最後、脅威と弱みをかけてイノベーションを起こすということです。実際、数多くの遊休不動産があるけど活用できる人材がいない。情報通信業を希望する学生に対し企業が少ないため、機会を失っている。人材がいないので、そういった人を活用できる人とかコワーキングスペースを手掛ける IT 企業を誘致するとか。それによって人材が霧島に集まってくる環境を作るということがイノベーション戦略です。この4つを柱に霧島の将来像とかコンセプトとか含めてリノベーションまちづくりの根幹として進めていきたいなと思います。4つの位置づけなんですけど、これから行っていくリノベーションスクールとか、民間の方に行っていただく新たなファンを創出するようなプロジェクトの方向性については下記の4つの戦略を意識して注力していただく。というような形でガイドラインの方向性として持っていきたいなと思います。あくまでダミーです、4つの戦略に対してこれまでみなさんが考えていただいたようなプロジェクトをこちらのほうで入れ込みました。第3回のSWOT分析をしてもらったプロジェクトを入れているので、増田さんと徳永さんはダミーで。第1回目です話にあった市営団地を活用したいってところと今動かれているプロジェクトをこちらで主観的に入れさせてもらっています。皆さん8名のプロジェクトを戦略に落とし込むと特徴的ですし、バランスがとれている。こういった一つのプロジェクトが4つの戦略を埋められないけど、全員で取り組むことによって霧島が新たなステージにたどり着く。そのための4つの戦略になってます。皆さんにこれか

らお願いしたいのがそれぞれのプロジェクトを紹介していきたいので、皆さんが考えられている事業内容、想い、写真、4つのどの戦略に当てはまるのかを考えてもらいたいです。今回ワークをしてもらうのは4つの戦略のコンセプト。ロゴマークも併せてバナナワークの二人に考えてもらいました。それを今からご説明いただきます。以上です。

須部) 3分くらい時間共有します。話し合ったことを発表してもらいます。

大西) すごくまとまってたし、やりたいこと含まれてるなと思いました。個人的なことなんですけど、攻め気味なことをコンセプトで挙げているので、言う組なので農業とかそういう古き良き伝統とか霧島のそういうことは知らないことが多いので、レガシーとコラボできたらいいなっていう話をしていました。1市6町分断されているっていう話もあったんですけど、逆に横川とか溝辺とか知らない話とかあると思うので、こういう話を聞ける機会がこの場だけじゃなくあったら新しいものが生まれるきっかけになるのかなと思います。

有村) クリエイティブがどこまで含まれているのかという話になりました。テクニカルな意味でのクリエイティブなのかアーティスティックな意味でのクリエイティブなのか。アーティスティックなほうであればそういう方々が発表できるような場であるとか考えないといけない。

須部) クリエイティブの意味をどこに置くのかしっかり決めないといけないですね。

日永田) 自分たちは話し合いを何回もしているのでスッと入ってくるけど、初見の人たちが分かりやすいような具体例があったらいいなと思いました。有村さんと一緒にクリエイティブ人材というものが具体的に何かがあったらいいなと思いました。おじいちゃんおばあちゃんが聞いてもわかるようなものがあるとわかりやすいと思います。例えばなんですけど、矢印があってこれがこうなっとうまく回っていくというのがあったらいいねという話になりました。

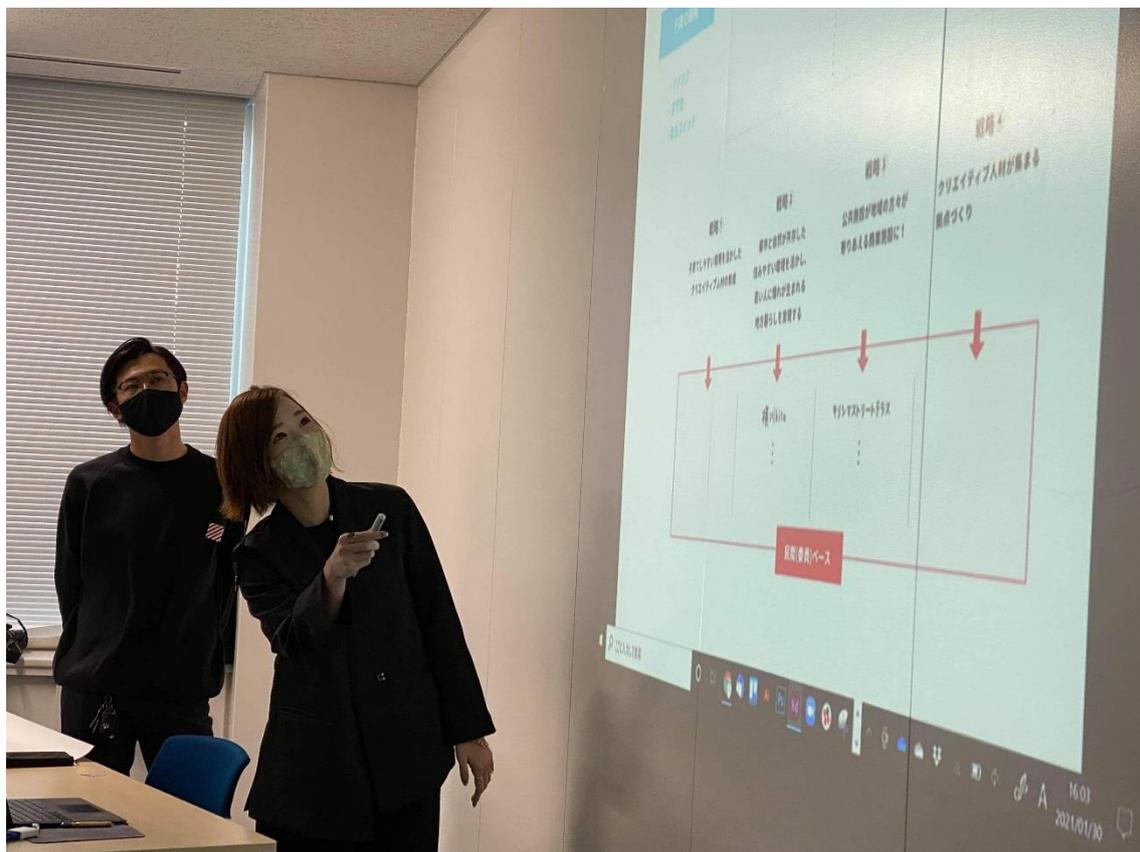
須部) 一般向けに説明するときにはもっとわかりやすくする感じ？

宮之原) 周知するパンフレットではもっとわかりやすく。あと、循環するのは考えているんですけど、まだまとまってなくて、今からじっくり考えます。

須部) ではバナナさんのロゴデザイン提案を始めます。

橋口) 霧島リノベーションまちづくりのロゴデザインを担当させていただくんですけど、

そもそもなんのロゴをつくるのかっていう説明です。なんのロゴかっていうと、霧島リノベーションまちづくりの宮之原さんが話した内容をざっくりまとめたものなんですけれども、構想のロゴになります。4つの戦略の構想のロゴとなります。ロゴの役割なんですけど、市民とのコミュニケーションになります。一つ目が霧島リノベーションまちづくりの広報。今まで市民とのコミュニケーションは第1回のみなんですけど、より多くの人に知ってもらってより身近に感じていただく。2つ目はロゴがあんまりまちづくりに使われないんですけど、あることでワクワクする、おもしろいという気持ちを引き起こす。まちづくりの一体感を強調する、楽しめるまちづくりを模索する、象徴するきっかけです。3つ目、次世代のローカルヒーローへのメッセージということで、今ここにお集まりいただいている8名の皆さんがまさしくローカルヒーローだと思えるんですけど、バナナももちろんそうなんですけど、次の世代とか霧島を担う人材へ思いを届けるというのをこのロゴが担います。具体的には沼津の事例でいうとチラシとかプレゼン資料とか、リノベーションスクール等で活用されていく予定です。



そもそも誰に届けたいかというところで次世代の霧島を担う世代、今回この構想を作るために集められた8名の委員のみなさんのようになりたい人に向けたロゴです。一言でいうと委員候補になります。今回3つの指針を考えました。まずは霧島のまちづくりのロゴなので霧島らしさがあること。2つめが視覚的にとことんかっこよく。まちづくりというのが、

私もロゴを作るにあたっていろいろ調べたんですけど王道であるのがその地域の地形をモチーフにしたもの。最後持続可能な発展とあるんですけど、今後バナナの手を離れてもみなさんの事業で広報物だったりとか SNS で使用する場面もあると思います。誰が展開してもぶれないような強いロゴマーク、この指針を表現しました。今回20ほど候補をつくって年始めに須部さん、松本さん、宮之原さんにプレゼンをしたんですが満場一致で選ばれたのがこちらになります。今回ロゴをつくるにあたって大事にしたキーワードなんですけど、先ほど挙げた3つの指針の中の霧島らしさというのがこの7にこめられています。霧島で7というと1市6町。1市6町を力強く表現したものです。霧島というスペースがあって7本の線があるんですね、これが1市6町を表現しています。でここ、ストライプで余白なんですけど、市民が参加できる可能性というか余白を設けています。メインの配色は黒なんですけど、各地域のつながりを重視した配色がこちらですが、7本すべて重なり合った時の色がメインカラーの黒になります。1市6町ばらばらというお話があったんですけど、すべてが重なると霧島ができあがるという意味を込めました。お察しの通り、あくまでこういう提案になるんですけど、地域性に合わせたカラー配色というのができるロゴマークになっています。カラー配色をする目的としてはその地域の生活者がいろんな暮らし方をしていると思います、まちづくりってすごく大きく聞こえるんですけど、地域一つ一つで当事者意識を持ってまちづくりにかかわってもらいたいという思いで、各地域の特色をカラーにして展開していくということもできます。これが霧島らしさを表現したロゴマークになります。2つ目が自分への愛着、誇りを持てるようなロゴマーク。一目で大胆にかっこよくしました。ここ手書きの線がこのロゴマークの特徴的な部分になるんですけど、これは今回のリノベーションまちづくりというのをみんなでやるという強い決意を表現しています。最後、持続可能な発信ということで制作者の手を離れても成立するロゴマークですね、マスクとか缶バッジとかでも生かせるようにしています。シンボルだけでも展開できるような作り方になっています。例えば傘は、まちなかで市役所とか店に置いておいて傘忘れたときに使っているよというような。それでまちなかにこのデザインがまちなかに溢れたらいいよねというところです。皆さんがそれぞれ名刺だったり自分のプロジェクトの広報物にも載せられるようにシンボルに作っています。宮之原さんが先ほど話した構想、今日を通してブラッシュアップされていくと思うんですけど、それをわかりやすく市民に伝えるガイドラインを作る予定になっています。リーフレットとか WEB でも強いビジュアルとしてお届けしていこうかなと思います。あとは第4回戦略会議が終わったとしても各プロジェクトの会議の内容とかそれぞれ委員をピックアップして市民に知ってもらいたいなと思っています。第4回の戦略会議では市民の皆さんにまちづくり構想の概要をまとめたチラシ1枚を配布する予定になっています。チラシ兼資料を配る予定です。第1回の際に山形屋の窓に勝手にバナナが作って貼っていたんですけど、それをこのロゴが決まった場合は地域カラーを意識したものを第4回は使っていきたいなと思っています。ここさつき meet KIRISHIMA というふうに描いていたんですけども、これは仮案で今から皆さんに出していただくコンセプトのキーワード

がここに入ります。今日出るキーワードとデザインが重なって初めてこのロゴの完成になります。以上です。



→ 1市6町を象徴的に、力強くシンボライズ
埋め尽くすことはなく、余白（可能性）を残す
7つの配色が可能、色の個性と重なり（繋がり）

大胆かつクールに BOLD and COOL

ポテンシャルと課題を抱える霧島を、自分たちの力で作り上げていく、みんなでやるという強い決意、自分たちが日々の暮らしを楽しむ

須部）ちなみに宮之原さんと松本さんと話していたのが、いくつか言葉を選んだほうがいいよねということで4文字か5文字のもの。例えば neighborhood だったら長いとか。今回今の段階で4文字か5文字の英語にしたいってしているけど今後変わるかもという話もしています。ロゴは一緒だけど下の言葉は変わるとか。ということで3グループに分かれて出したものをプレゼンしてもらって、今日1個決められたらいいなと思います。

■ コンセプトのキーワード出し〜ワーク〜

須部）お疲れ様です。みなさん全然違う切り口で話されていて面白かったです。各グループで発表をお願いします。

白水）1個目、CRAZYです。誉め言葉で、世界中からおまえのとこイかれてるよねって言われるくらい面白いまちにしたいという思いを込めました。

日永田）WKWK CITYです。Aが入ると WAKUWAKU CITAY という風になります。

徳永）around KIRISHIMA です。環とかつながりとか円が想像されて、それが動的にということで around にしています。子どもたちにもつなげていきたい、環境的にもということとここで結局は輪廻転生というところでは。

勘場）まちづくりは人ありきです、このロゴを見たときに人を連想できればいいなと思ったので KIRISHIMA STARS にしました。星という意味なんですけど、希望とか率直に人が思

い付くのがいいなということで最初の3年間はこれでいきたいと思います。ちょっとずつ
とがってきたら KIRISHIMA WEIRDS にしたいと思います。意味は変人です。

須部 各グループで今の4つだったらどれがいいか、話し合ってください。あれもいいねと
かブラッシュアップしてほしいです。

勘場 真ん中の班は STARS を出しましたが、意味合いとしては7ということで七つ星とかい
うイメージかなと。STARS というのは希望の星イコール人みたいな当事者意識が持てるかな
ということで話をしました。CRAZY はいいんですけど最初はちょっとという話もしました。

大西 うちの班はやっぱり（輪廻転生が）いいねってなって。デザインのブラッシュアップ
をしています。ロゴの手書きの部分を文字にも落とし込もうかなと思います。

日永田 私たちは CRAZY になりました。狂気の意味もあるんですけど、やばいとか素晴らしい
という意味もあるので外国人からしたらいい意味で使っている言葉です。AWESOME CITY
PROJECT というのがあるんですけど、AWESOME の崩したのが CRAZY だったので親子的でいい
かなと思います。



AROUND
KIRISHIMA



KIRISHIMA
STARS



CRAZY
KIRISHIMA

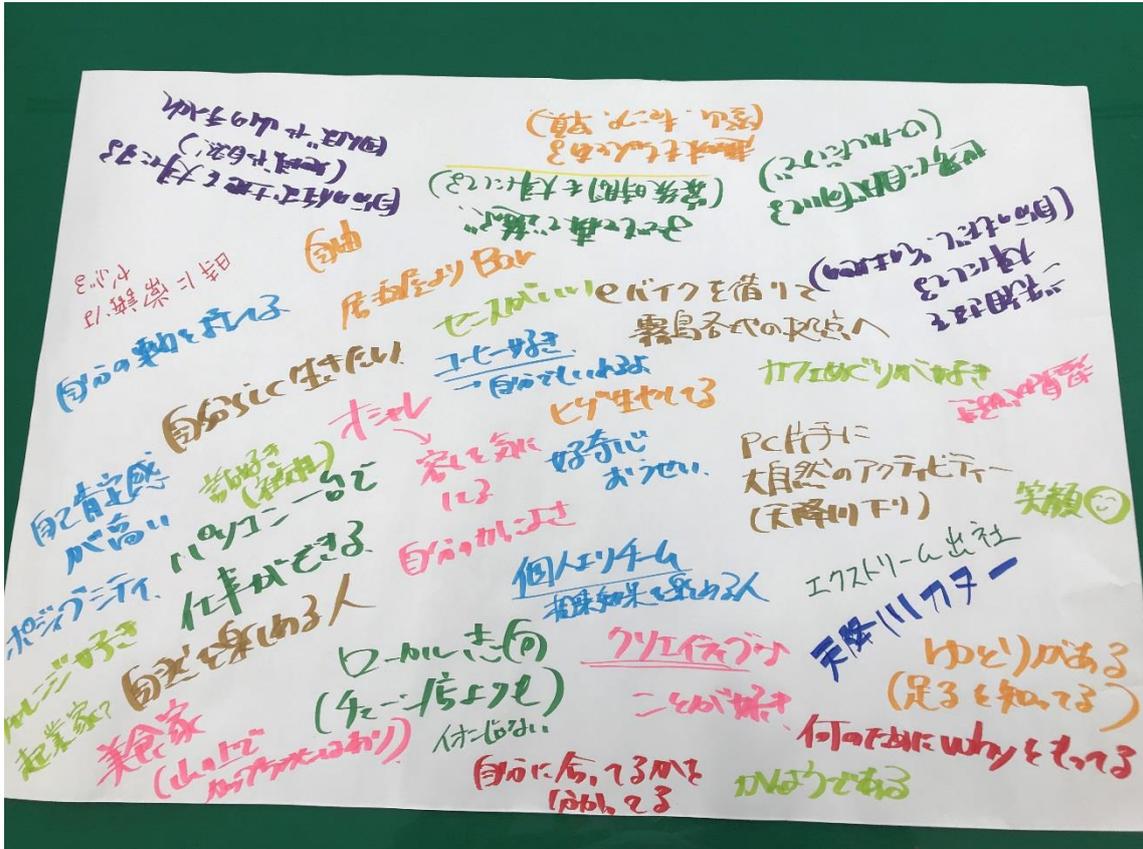
その他案

- REBRANDING KIRISHIMA
- Re: KIRISHIMA
- RE:DESIGN KIRISHIMA
- REMAKE KIRISHIMA
- CREATE KIRISHIMA
- SEVEN KIRISHIMA
- BLACK KIRISHIMA
- HERO KIRISHIMA
- UP TO KIRISHIMA
- LIVE KIRISHIMA

- STYLE KIRISHIMA
- GROW KIRISHIMA
- LONGING KIRISHIMA
- GOOD TO LIVE KIRISHIMA
- SUMIYOI KIRISHIMA
- WELL BEING KIRISHIMA
- FUTURE KIRISHIMA
- NATURE CITY KIRISHIMA
- WKWK KIRISHIMA
- PEACE PLAY KIRISHIMA
- TAKE KIRISHIMA
- CO-KIRISHIMA
- 輪廻転生 KIRISHIMA
- STAY GOLD KIRISHIMA
- DREAM KIRISHIMA



■霧島の未来のファン像のキーワード出し～ワーク～



- ・自分の軸を持っている
- ・自己肯定感が高い
- ・ポジティブシテイ
- ・コーヒー好き→自分で仕入れる
- ・好奇心旺盛
- ・個人よりチーム→相乗効果を楽しめる人
- ・自分らしく生きたい
- ・自然を楽しめる人
- ・eバイクを借りて霧島各地の拠点へ
- ・PC片手に大自然のアクティビティー (天降川下り)
- ・話好き (社交性)
- ・チャレンジ好き→起業家?
- ・センスがいい
- ・カフェめぐりが好き
- ・笑顔
- ・寛容である
- ・美食家 (山の上でカップラーメンはあり)

- ・クリエイティブなことが好き
- ・オシャレ→容姿を気にしている 自分のカッコよさ
- ・温泉が好き
- ・自由
- ・居酒屋よりバー
- ・ヒゲ生やしてる
- ・ゆとりがある (足るを知っている)
- ・趣味もちゃんとある (登山、キャンプ、写真)
- ・時に常識を破る
- ・自分に合っているかをわかっている
- ・何のために why を持っている
- ・パソコン一台で仕事ができる
- ・ローカル志向 (チェーン店よりも) イオンじゃない
- ・世界に目が向いている (ローカルだけど)
- ・子どもが森で遊ぶ (家族時間を大事にしてる)
- ・エクストリーム出社
- ・ご先祖様を大切にしている (自分のもだけど、その土地の)
- ・自分の住む土地を大事にする (地域や自然)
- ・田んぼや山の手入れ



■エリアの未来～ワーク～



★自然と近く新しい暮らしを手に入れることができるまち → クレイジーな人を増やす

★人間らしい暮らしを手に入れることができるまち

→まちなかと自然をつなぐ (アラウンド)

⇒そういった暮らしや遊びをしているクレイジーな人はいるはず！そういう人にスポットを当てた小冊子でPRしていく必要がある。

★自然 (山、川、海) の遊び方が key

→行った所がないくらい広い霧島を満喫できる

→自然で遊べる場所・モノ (アクティビティ) が増えていて欲しい

→冒険家・探検家が増えて欲しい

e. x.)

・休日に横川 (山) から天降川 (川) をカヌーで下って、錦江湾 (海) に行ける。他にも水陸両用車など。途中日当山に温泉に入れる！宿泊も可能。上級・中級・子供向けコース。温泉堀り体験。

・電動自転車で各エリアを回れる。

・街中にはダイビングやキャンプなどのアクティビティショップ&スクールがある。

・早朝にレジャーを全力で楽しんでからする特別な出社、究極の朝活である「エクストリー

ム出社」ができる。昼休みにも。

★遊びと仕事を分けない暮らし方が key

→自然の中で仕事ができる

→チャレンジできるまち

→個人事業主が多いまち

→収入源が多数あるなどパラレルワークができるまち

e. x.)

- ・ PC 片手に仕事ができる
- ・ 中山間地域に住みながら自然の中で仕事ができる
- ・ 近隣の住民との接点生まれる
- ・ 空港があることを活かし、首都圏の方も日帰りでワーケーションができる

★新しい暮らしは IT が key

→ローテクとハイテクが融合したまち

e. x.)

- ・ 高齢者でもアレクサを使いこなす
- ・ 自動運転タクシーの実証実験

★お酒と食べ物の楽しみ方が key

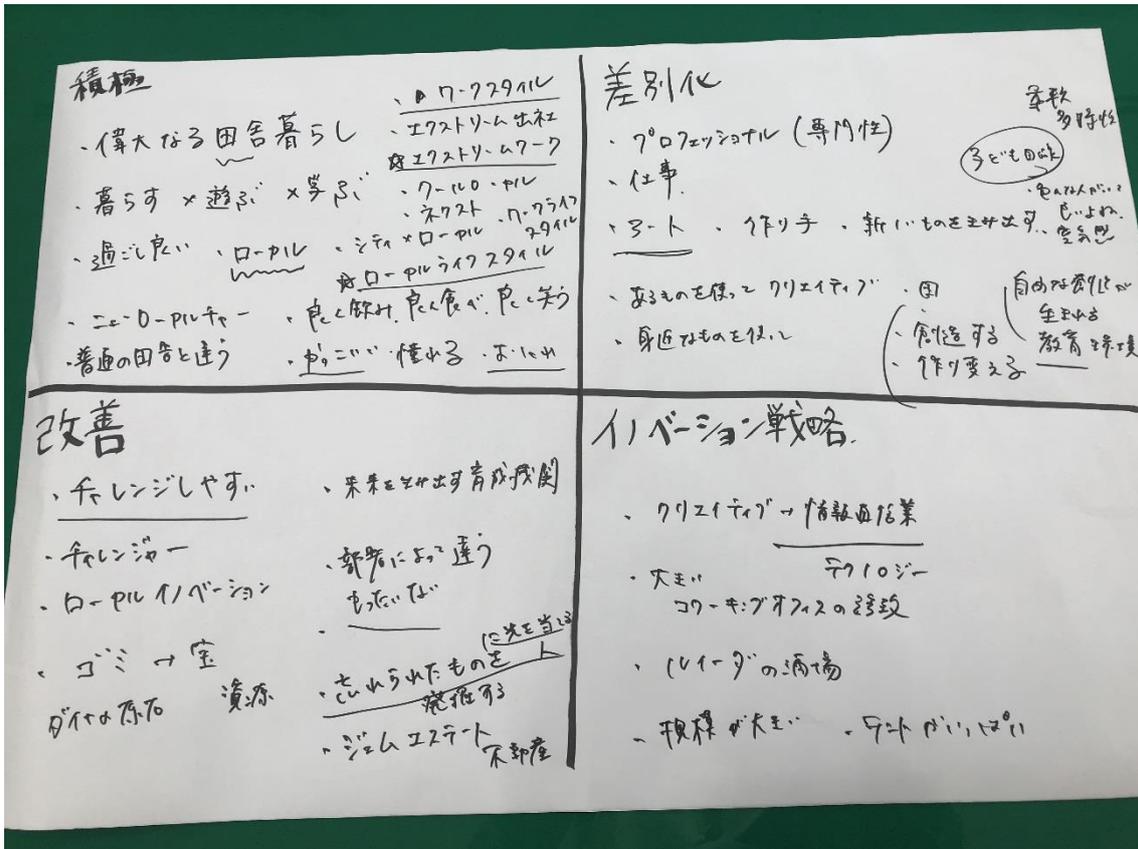
→芋焼酎だけでなく、霧島の食材を色々なお酒と組み合わせることで至福のマリアージュとなる

★音楽やアートなどのサブカルが key

→日常で楽しめる文化の醸成



■エリアの未来～ワーク～



□若い人に憧れが生まれる地方暮らしを実現する

- ・偉大なる田舎暮らし
- ・暮らし × 遊ぶ × 学ぶ
- ・過ごし良い
- ・ローカル
- ・シティ × ローカル
- ・ニューローカルチャー NEW LOCALTURE
- ・普通の田舎と違う
- ・ワークスタイル WORK STYLE
- ・エクストリーム入社 ⇒ 早朝にレジャーを全力で楽しんでからする特別な入社、究極の朝活
- ・エクストリームワーク
- ・クールローカル COOL LOCAL
- ・ネクスト
- ・ワークライフスタイル
- ☆ローカルライフスタイル
- ・よく飲み、よく食べ、よく笑う
- ・かっこいい・憧れる・おしゃれ

□子育てしやすい環境を活かしたクリエイティブ人材が育つ土壌をつくる

- ・プロフェッショナル（専門性）
- ・仕事
- ・アート
- ・作り手
- ・新しいものを生み出す
- ・柔軟
- ・多様性
- ・いろんな人がいていい
- ・あるものを使ってクリエイティブ
- ・身近なものを使って
- ・創造する
- ・作り変える
- ・自由な創作が生まれる教育環境



□数多くある遊休不動産に新たな価値を生み出す人材の発掘・育成を強化する

- ・チャレンジしやすい
- ・チャレンジャー
- ・ローカルイノベーション

- ・ゴミ（ダイヤの原石）→宝（資源）
- ・未来を生み出す育成機関
- ・部署によって違う
- ・もったいない
- ・忘れられモノに光を当てる人（発掘する）
- ・ジェムエステート不動産

□人材・企業誘致によるクリエイティブな人材が集まる拠点をつくる

- ・クリエイティブ→情報通信業（テクノロジー）
- ・大きいコワーキングオフィスの建設
- ・ルイーダの酒場
- ・規模が大きい
- ・テントがいっぱい